

2017年(平成29年)2月15日(水) 第29回 例会 (通算2735回)



人類に
奉仕する
ロータリー

RI 会長: ジョン・F・ジャーム

Weekly Report No.2615

Rotary International District 2580

石垣ロータリークラブ

地区ガバナー: 上山 昭治氏

「出会いを大切に」

ロータリーレート \$1=¥116



石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

1985~1986年度



二十五代会長 崎山 寛宗

副会長	黒島 清	幹事	池田 宗泰
副幹事	三木 巖	会計	大田 守信
会場監督	大城 清幸	クラブ奉仕	黒島 清
社会奉仕	宮良 長欣	職業奉仕	石垣 信亨
国際奉仕	富川 盛博		

- 新年、日の出観光と西表洋上遊覧へ新垣会員協力のもと、市内の身体障がい者 50 名を招待(1986.1.1)
- 東京日本橋 RC 会員(家族含 25 名)との親善パーティーを開催
- 平良、石垣 RC 親善フォーラム開催(テーマ:今後の先島観光について)
- 青少年交換留学生受け入れ
- 創立 25 周年記念事業として市民会館敷地内にガジュマルを献木

《社会情勢》

- 1986 年
- ・奈美紀ちゃん誘拐殺害事件
 - ・内原氏が市政施行初の 4 選
 - ・ミャンマー八重山から根絶
 - ・文化の殿堂市民会館がオープン
 - ・与那国町離島振興センター完成
 - ・平得の軍用地がようやく払下げ
 - ・宮良川河口汚染県下ワースト 1
 - ・県道黒島港線が日本の道百選に

【RIテーマ】

YOU
ARE
THE
KEY



あなたが鍵です

1985~86 年度 RI 会長
エドワード F.カドマン
(米国・ウエナチ RC)

会 長	: 前木 繁孝	副 会 長	: 大浜 一郎	幹 事	: 前原 博一
副 幹 事	: 宮城 早人	SAA・出席	: 遠藤 正夫	情報・会報	: 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
 E-mail ishiroty@ninus.ocn.ne.jp

— . . . — 第2734回 2017年2月8日(水) 例会報告 — . . . —

- 司会進行： 遠藤 正夫
- ロータリーソング： 君が代・四つのテスト
- ゲスト： 金城 学氏(竹富町商工会所長)
- ビジター： 澤田 善吉氏(岐阜城 RC)
伊藤 卓巳氏(相模原西 RC)
- メイクアップ： 宮良 薫・渡久地 明

■出席報告

会員総数 38名 出席義務会員 37名
 出席数 24名 欠席数 13名
 出席率 64. 86%(2月通算出席率 59. 46%)

 本日のここにこ

	小 計	累 計
BOX	¥8,000	¥148,000
コイン	¥2,563	¥105,658
合 計		¥253,658

○今回で 4 回目の訪問となります。お世話になります。
 岐阜にもぜひおいで下さい。(岐阜城 RC 澤田善吉)
 ○竹富商工会会長、有難うございました。

(大濱 達也)

○インドポリオワクチン投与プログラム行って参りました。

(大浜 勇人)

○地区大会、ご苦労様でした。(上勢頭 保)

○地区大会の二次会の会長に感謝 (白道 直行)

○遅くなりましたが、今年も石垣島マラソン完走出来ました。

(南波 正幸)

○節分会、無事終わりました。とり年の方が大勢参りました。

(小林 昌道)

○上勢頭竹富町商工会会長、有意義な卓話ありがとうございました。

(前木 繁孝)

会長挨拶：前木 繁孝

先週の地区大会には大勢の会員の皆さまが東京、ニューオータニまで参加して頂き、心より感謝申し上げます。おかげさまで例年そうですが、参加クラブ発表の時に石垣が元気よく大勢がいききに立ち上がってハイと返事して、他のクラブがオーという声を上げてくださいました。一番南のクラブがこれだけ参加して、なのに東京は地元なのに少ないんだと反省していると思いますので、我々はそれにも一役買っているのではないかと思います。

今年の上山ガバナー「親睦と研修」という事で、ロータリーの現状、2580 地区の現状も述べておられました。世界には 120 万人のロータリアンがいると、だけど

先進国の会員が減少している、後進国である東南アジアの会員数がアップしてきている。そのトータルで 120 万を維持していると話されておりました。日本でも大分減少しているようです。その辺の根本原因は何だろうという事も含めて、研究していこうという話もありました。

今回の RI 会長代理の廣畑先生が初心に帰ろう、ロータリーの原点に帰ろうというお話をされておりました。廣畑先生が出された本を、山里ガバナー補佐から先日頂いたばかりなんです。この中で一部抜粋をして読み上げたいと思います。「ロータリーは 1905 年、ポールハリスによって始められました。たった 4 人で始まったロータリーが今では世界に 120 万人の会員を持つ大組織になりました。そのもとには創始者の方々の強烈な精神がありロータリーの基本があり、それらがロータリーの大発展に繋がりました。残念ながらロータリーは近年大きくの問題を抱えるようになりました。ロータリーの魅力が失われてきた、そのような声をよく聴きます。最近のロータリーは世界的に出席率が非常に低下してきました。会員数も発展途上国では増加するものの、先進国では減少してきました。日本の会員数は地区によってはこの 5 年間に 25%も減少しました。こういう状況の下で我々はどうしたらいいのでしょうか。RI の名誉会長として誉れ高いピチャイ・ラタクルさんは『ロータリーの基本に帰ろう(Back to basic)』と繰り返されました。さらに 1905 年に戻ろうとも言われました。」廣畑先生がこの本を発行するに至った内容が少し載っています。「さてこの本の出版にはこのような背景があります。本の題名はロータリーの心と原点です。ロータリーの創始者ポールハリスが日本の戦前のガバナーの方たちがロータリーの理念をそのように捉え、何を目指したのか、それを探ってみたいと思います。ロータリーは慈善団体ではありません。発展途上国の援助が目的の団体ではありません。金集め、人集めが目的の団体ではありません。ロータリーの本質には素晴らしい魅力がある、それを確かめ、再発見したいと思います。多くのロータリアンの方々がお読みくださり、もしご賛同いただけるなら幸いです。」

ロータリアンにはりっぱなモラルが求められていると思います。そして毎週の例会はその学びの場でもあり、実践の場であると私は思います。ぜひ毎週の例会を大切にして、ぜひご参加もよろしくお願ひしたいと思います。

幹事報告：前原 博一

まず地区大会参加された方、お疲れ様でした。ありがとうございます。地区大会が2/1・2で行われましたが、上山ガバナーと園部実行委員長からお礼状が届いています。

報告として3点あります。お手元に確定申告用の寄付金領収書があると思います。これは寄付金控除という規定がありまして、この領収書を付けたら税額が安くなります。注意事項として事務局からこの寄付金を含めた領収書をもらっている方は二重にならないようにお願いします。

講演会の案内です。2月25日(土)に元巨人軍のデーブ大久保さんが石垣市民大ホールで私の野球人生と題して講演会があります。チケットは1,000円になっていますので、事務局までお願いします。時間は6:30～8:00です。

7月から12月までの出席率のご報告です。例会が23回ありました。その中で会員39名中、毎回例会に参加、またはメークアップを含め、100%出席の方が11名いました。率にすると28.2%になります。今回会長から100%の方に記念品を贈るといふことで、準備したいと思います。楽しみにして頂きたいと思います。

会員報告：大城 文博

2/1から千葉ロッテマリンズ1軍・2軍入っています、すごく盛り上がっています。ぜひロータリーの皆さんも盛り上げて頂きたいと思います。12球団の中で地域限定公式ファンクラブは唯一Ishigaki26だけです。皆さんで会員になって応援して頂こうと言う事で作られました。入会希望の方は大人2,000円、会員証がワオンカードになります。それに今年10周年でメモリアルTシャツ、石垣だけの記念Tシャツを差し上げます。2/19に会員になった方を対象に抽選会があります。当選した方はご本人にお電話します。グッズや東京往復航空券宿泊観戦チケットが当たります。ぜひ皆さん入会よろしくお願いします。

委員会報告：大浜 勇人

先日1/27～1/31までインドに行って参りました。ロータリーがやっておりますポリオ投与プログラムに参加させて頂きました。初めてのインドでいろんな体験をさせて頂きました。2日間かけてポリオの投与をやってきました。1日目は沖縄の昔

のマチャグァーの筋道、車が通らないような狭い所で机を出して、トータル45名行ったんですが、2人ずつチームを組んで現地の保健スタッフと一緒に4人で、色んな箇所に散らばってポリオワクチンの投与をしました。色んな人種、色んな宗教、色んな子ども達の顔を見れました。だいぶ前に廃止されていますが、カースト制が色濃く残っているようで子供によって栄養状態の差や身なりも靴を履いていないような子供がいたり、リアルスラム街という所でやりましたが、ポリオワクチンを投与したら、戸籍登録をされていないので、左手にマーキングをするんですが、子供の手を取ってマーキングをやろうとしたら指が無かったり、リアルな体験をしてきました。翌日は戸別訪問で1個1個の家を訪問して、狭い急な階段を上っていく家で、1個1個の家を訪問して中に入って、どのような生活をしているのか見れたのもすごくいい経験になりました。我々が寄付しているお金がどのように世界に役だっているのか体験できたのがすごく良かったと思っています。ポリオは世界でまだ0.4%残っているそうです。インドでは2011年には撲滅されたと言う事なんですが、隣のパキスタン、シリアとかの内線地帯では完治ができていないので、日本でもまだ子ども達に投与していかないといけないという事で、まだプログラムは続きますので、機会があればまた行きたいと思っています。

ゲスト卓話：上勢頭 保氏

竹富町商工会会長



～竹富町商工会の取組～

竹富町商工会の会員は9つの有人島に散らばっております。会員は自営業が多く家族で運営する零細企業ばかりです。石垣市の商工会員の構成とはかなり異なると思います。そういった中で、自立し、安定し、次の世代に継承できるような会員

をどのように育成をしていくかという取組みをしておりますのでご紹介したいと思います。

商工会組織は沖縄県では 34 市町村にあります。全国の商工会で総会員数が増加しているのは沖縄県だけです。どのような組織でもどんどん減少傾向にある中で、沖縄県は会員が増えています。それは資金面の援助がかなり充実してまいったことも要因の一つです。

沖縄には沖縄開発金融公庫という金融機関があります。私が商工会長になった頃には融資枠が 1 社 500 万円でしたが、今は 2,000 万円となりました。利子が民間の銀行より安いのもありがたいのですが、担保や保証人がいないということが最大の利点です。離島の資産の担保価値は都会よりはるかに低く、そこではねられてしまうことが多いからです。事業計画が金融審査委員会で通れば、2 週間くらいで上限 2,000 万円までの融資が受けられます。資金力の無い沖縄の零細企業や中小企業をサポートしてくれている有り難い存在です。沖縄の中でも竹富町は島々が点在し経済的に不利な状況にあるのですが、融資の利用率は石垣よりも多いという状況を作り出すことが出来ました。つまり会員たちが産業おこしを頑張っているということです。

竹富町商工会の会員を業種別に見ると、建設業が 4.4%で 16 社、製造業が 39 社 10.8%、卸・小売業が 26 社で 7.2%、飲食業・宿泊業、民宿関係が竹富町は多いので、101 社で 28.1%、サービス業、食堂とか喫茶店が 121 社で 33.6%、その他が 57 社で 15.8%、合計で現在 360 社の事業所を抱えております。

会員の離島分布状況は、竹富島が 46 社(13%)、新空港開港以来 50 万人近いお客さんの入域数があります。空港に降り立つ半数近くのお客様が来てくださっている、有り難いことです。しかし経済効果はというと、石垣島から非常に近いので日帰り観光が多く、空き缶だけが残されているのが現実です。空き缶号という船まで準備して空き缶処理、ゴミ処理に追われています。

小浜島が 39 社 (11%)、さとうきびと畜産業、細崎に少しばかりの水産業があります。小浜島の製糖工場は 5,000 トン以上生産しなければ採算が合わないのですが、近年牛の値段が高く、きびを作るよりも牛を養った方がいいという事で、畜産をやっている農家が多いというのが現状です。行

政としては借金をして補助金で製糖工場を新しく造っておりますので、きびの増産をしてほしいとお願いをしている所です。

西表東部は 74 社 (20%)、観光業とさとうきび農業が盛んです。観光は仲間川観光が主体です。農業はさとうきびと水田が主ですがパインも少々作っております。去年製糖工場が新しく出来ました。商工会としては、まず今年竹富町最大の島で 6 次化に向けた事業を行っています。西表西部は 151 社 (42%)、パイナップルと熱帯果樹が非常に盛んで、石垣島のアルカリ性土壌と違って酸性土壌ですので、パイナップルの糖度は非常に高く贈り物としての人気が上がってきています。最近ではハウスを利用して 1 年中パイナップルを作る生産者も出てきました。

それから西部には川がたくさんあるので、数えきれないほどのカヌー業者がいます。これが頭が痛い。一艇が 20 万~25 万で買えますので、少し勉強したらカヌーを 2・3 艇買って独立し、1 人 12,000 円くらいのツアー料金で始めてしまいます。今は集客もネットで出来るので、あっという間に増えました。未熟で事故が多く、また自然破壊行為も多くなりました。せつかく今、西表の西部地区を中心に世界自然遺産登録に向けた申請を行っているので、町で認可制、免許制にしてなんとか制限をしていかないとならないでしょう。永續して営業を続けていくためには、自分のため、営利目的のためだけでなく、地域のことも考えることが大切だということに早く気がついて欲しいと望むばかりです。

日本の商売の基本としてよく語られる言葉に「売り手よし、買い手よし、世間よし」というのがあります。商品やサービスを売ってお金をもらう方も、またそれに対してお金を支払う方も、両方が幸せになるようなビジネス、それを最近「WIN WIN の関係」などと言ったりするようですが、それだけではなく、「世間よし」つまりそのビジネス活動によって、社会がより良くなる方向に少しでも導かれることがよいのだというような意味です。地域還元の意識を持つことを無くしてしまうと、商売自身も持続可能にならないということです。こんな狭い地域では、一人一人の心の持ちようが、善くも悪くもすぐに結果につながります。

そして黒島が 15 社、波照間が 32 社、その他が

3社、合計で360社です。

竹富町は増田レポートで沖縄県内でも最初に潰れる行政だと書かれました。増田レポートを簡単に言えば、人口減で行政がつぶれるというものです。少子高齢化、つまり子どもを産み育てる若い夫婦がその地域にいなくなり、老人ばかり残ってしまうということです。我々はその予言をひっくり返したいと思いました。そこで私たちは、今年度の重点事業としてまず「経営発達支援計画」を立案しました。計画が経済産業省に認可されることで、プロジェクトへ国からの人件費を含む補助を受ける事ができるからです。つまり具体的な雇用増が出来ます。

そしてお客がストレスなく買い物が出来るという商売の基盤を整えるために、キャッシュレス環境整備促進事業を導入しました。町内施設にはクレジットカードが使える所が無く、また金融機関は郵便局しかありませんので、宿泊代を払うのにも不便だというお客さんの声が増えてきていたからです。竹富町と連携を取りながら補助金を入れて頂いて整備を進め、現在ではクレジットカードが使えるようになっております。今後世界遺産に指定されると外国人の観光客が多くなりますので、利用価値が上がるのではないかと期待しております。

3番目は地域資源の活用と島々のブランド確立です。実は様々な調査結果を見ていると、竹富町は竹富島だけだと思っている日本人が多かったです。またヨーロッパのある調査では、西表山猫が有名なので、八重山地域では西表島だけ知っているという結果もありました。これだけの近距離に、これだけの個性のある島々があることを知ってもらうことが、もう一回り大きな事業を行うためには必要だと考えたからです。一つの島が特化して知られて行くことよりも、島々のブランドとしてアピールしていくことが未来のために大切だと思います。観光協会も「ハートアイランド、恋する黒島」として、島の魅力を引き出し、「島々」としてのブランド作りががんばってくれています。

今年度竹富町商工会は30周年を迎え、先だって記念事業をする事ができました。離島の離島である竹富町、これまで幾多の苦難がありましたが、ようやく360社となりました。第3次産業である観光業を基幹産業としての認知度も広まってきました。しかし実は私は、持続可能な竹富町を形成

する要素として重要なのは第1次産業であると思っております。第1次産業はその土地の風景をも形づくりします。それらを繋ぐものとして、東京大学の今村教授が提唱された言葉で、1(1次産業)+2(2次産業)+3(3次産業)=6次化、1(1次産業)×2(2次産業)×3(3次産業)=6次化があります。1次産業、2次産業、3次産業をプラスしたり掛け算したりして6次化の産業を作り出していくこと、これこそ竹富町の課題解決の道だと考えています。

沖縄振興会議というのがありまして、与那国町、竹富町、石垣市が組んで広域連携事業をしようということになりました。石垣がどうしても経済の拠点ですので、石垣市に製造工場を造って、全国に販売をしていこうということに決まっていたのですが、なぜか石垣市は先に製造工場を造って独自で走り出してしまいました。なのでしかたなく我々も独自でやることにしました。石垣市は足は引っ張るけど手は引っ張らないのだなあ、というのが私の今思っていることであります。まあ復帰後40数年間、石垣に言いたいことは山ほどありますが、海に囲まれた与那国町、竹富町、石垣市、似ている条件を持つ3者が、ともに手を携えて広域連携事業として、八重山地域として世界に立ち向かうことが、この世界に広がるグローバル経済で生き残っていくためには必要なのではないかと、という私の本音は変わってはおりません。

今、我々が取り組んでいる商品、今年は西表を中心にしておりますので、黒糖を利用したプリン、パイナップル、マンゴー、スターフルーツを利用したもの、それからもち米を粉にし、それを用いて様々な製品作り、食べ物だけでなく石鹸などの雑貨にもチャレンジしています。これは県の「地域ビジネス強化支援事業」で、竹富町は去年採択されまして、総額が2,700万円の補助事業を受けて、竹富町ブランドにあった新商品を開発するために一生懸命職員が取り組んでおります。しかしまあまだまだです。もっと現地に足を運び一緒に汗をかかないと、売れていく力を持った商品にならない。商売の厳しさをまず教えないとならないなあと私も反省しているところです。

この支援事業に挑戦することになったきっかけは、実は新空港が出来た時に遡ります。空港ターミナルから、地域の魅力を引き出すためにぜひ竹富町も出店して欲しいという要請がありました。

与那国町は単独では出店出来ないということだったので、与那国町の商品も委託を受けて販売することにしました。会員の中から商品を出したい方を募って始めた空港の『島土産』、人気は上々で売り上げも 5,000 万を越えました。それではと商工会から独立させるために、資本金 1,500 万で竹富町物産観光振興公社を立ち上げました。それから離島棧橋に『島土産』2号店をオープンしました。1年目は商工会とペアで動いておりますが、2年目からは観光協会とも一緒になって、キャンペーンに行く時は『島土産』の商品を持って行って、観光 PR をすることが一番効果的じゃないかという事になっております。同じフロアにいる観光協会と商工会の壁を取り払いました。これは実際に壁を取り払いました。次年度は商品開発においても連携し頑張りたいと思っておりますのでご期待ください。

このプロジェクトは3年間続く予定です。結果が出なければ単年度で終わるかもしれません。3年間補助金がいただけるように質の高い取り組みをして、結果を出していきたいと思っております。竹富町の持続可能な地域経営を目指し、それぞれの企業が幸せになるよう、商工会の使命を全う出来るようこれからも頑張っていきたいと思っておりますのでご支援よろしくお願い致します。

★ハイライトよねやま203号 ★ 2月13日発行

《2017 学年度米山奨学生選考を全地区で実施》

2017 年 4 月採用の新規米山奨学生の面接選考が 12 月から 1 月末にかけて、全国 34 地区の各選考委員会によって行われました。指定校からの申込者 1,358 人のうち、学部・修士・博士課程奨学金と地区奨励奨学金を合わせた 586 人（枠）が合格予定です。現在まで報告を受けた合格者の出身国・地域は、中国、ベトナム、韓国、台湾、モンゴル、マレーシアなどが多くなっています。今後、他の奨学金合格等による辞退・繰上げによって、人数と国籍の変動が見込まれます。この他、現役奨学生の延長制度であるクラブ支援奨学金には 2 人が合格しました。海外からの個人直接応募制度の海外応募者対象奨学金、および、海外学友会推薦奨学金は現在選考中です。2017 学年度の奨学生数は、新規合格者と昨年度からの継続奨学生を合わせた 780 名（枠）となります。

例会風景



◆伊盛 米俊氏 1962年2月18日生れ

